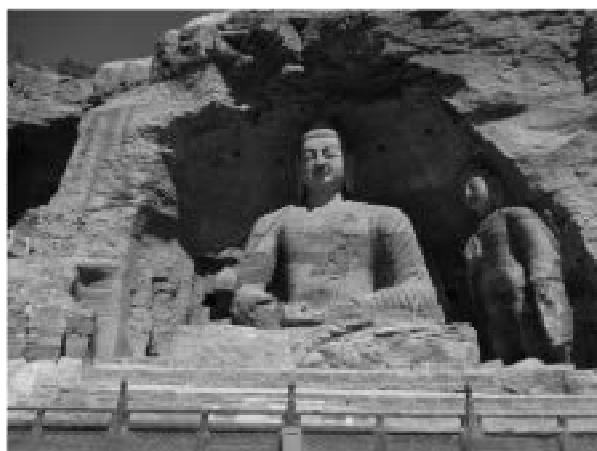


中国語のすすめ

世界の5人に1人が話す言葉

みなさんは、英語を習い始めた頃“Chinese”という単語には、どうして「中国の・中国人（の）・中国語（の）」と、意味が「沢山」あるのだらうと思いませんか。それは、話されている言葉というものが、その人間集団を特徴づける極めて重要な要素の一つであることと関係しています。中国語を学んで、中華世界への扉を開けましょう。



「一衣帯水」の隣国である中国との交流は『魏志倭人傳』の頃から数えても2000年近くの時間が経過しています。近年における中国のめざましい経済発展、それにとまなう存在感・影響力の大きさは、言うまでもありません。長期的に見てもこれからも日中の交流は増えていきます。そのためには、中国人や中国社会についてより知る必要があります。そのためには、彼らの思考を支える中国語を学ぶことが一番です。

私たちが学ぶのは“普通话(普通話)”と呼ばれる標準語で、中華人民共和国政府が正式に定めたものです。この“普通话”を使えば、中国大陸はもちろん、台湾や東南アジアをはじめ、世界中の華僑・華人の人たちともコミュニケーションを取ることが出来ます。

中国語を学ぶ面白さとは？

中国語は、全体が一つの音楽のように、リズムに乗って流れる美しいことばだと言われることがあります。日本と中国は同じく「漢字文化圏」に属しており、日本人にとって漢字を見れば意味が分かるということも少なくありません。「登山」、「学問」、「読書」などは、古くに中国から借用した「外来語」ですが、すっかり日本語の中に溶け込み、もはや外来語という印象が無くなっています。それとは逆に、“文学”“社会”“美術(美術)”などのように、20世紀に日本から中国へ、言わば「逆輸入」された漢語というものもあります。一般の国語辞典で漢語の占める割合は6割～7割と言われています。これは日本語を母語とする者にとって、たいへん大きなアドバンテージです。知っている漢語を、中国語読みするだけで、意味が伝わるのですから……。しかし、中には意味の全く異なるものがあります。たとえば“娘”は「お母さん」のことですし、“手紙(手紙)”は「トイレトペーパー」のことです。また、“最近”という中国語が「①さいきん、②近い将来」という意味であり、“看病”は「(医者が)診察する／(患者が)診察を受ける」という意味を表すなど、日中で同じ漢字を使っているながら、意味の違いは沢山あります。それら、共通点や相違点を見つけるのは中国語学習ならではの面白さと言えるでしょう。

